

絵解き

誰でもわかる、

フラットアースは大嘘

平面真理教

～ 新手のカルト宗教に騙されないために～

?

フラットアースの主張

- ✕ 地球は平面
- ✕ 重力は存在しない
- ✕ NASAは嘘をついている
- ✕ 世界中が騙されている

真実を知れば、
こんなに
スッキリ!

現実の地球

- ✓ 地球はほぼ球体
- ✓ 重力は存在する
- ✓ 観測事実が証明
- ✓ 科学が真実を示す

疑うことから真実が見えてくる!

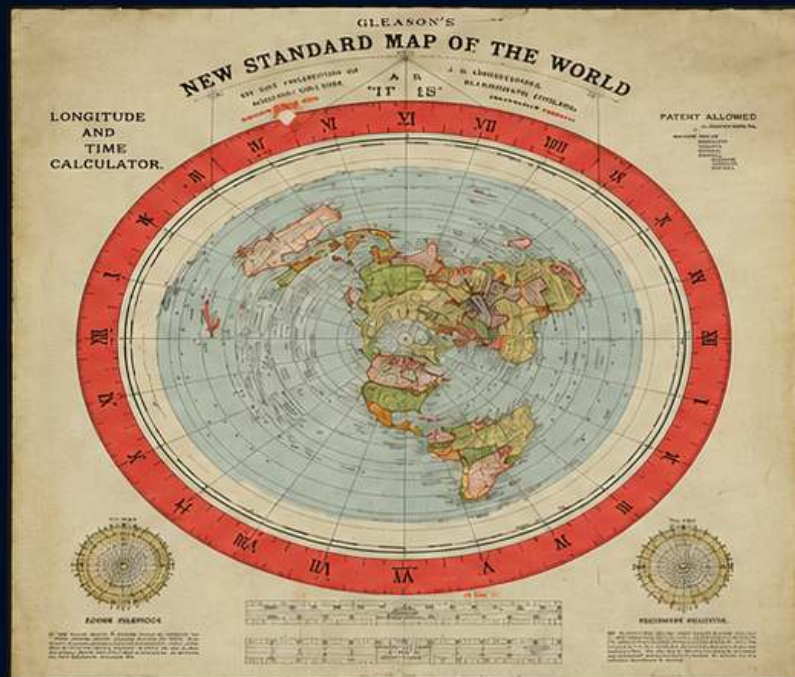


想像できますか？
もし**フラットアース**が本当であれば、
どんなことになっているのでしょうか？

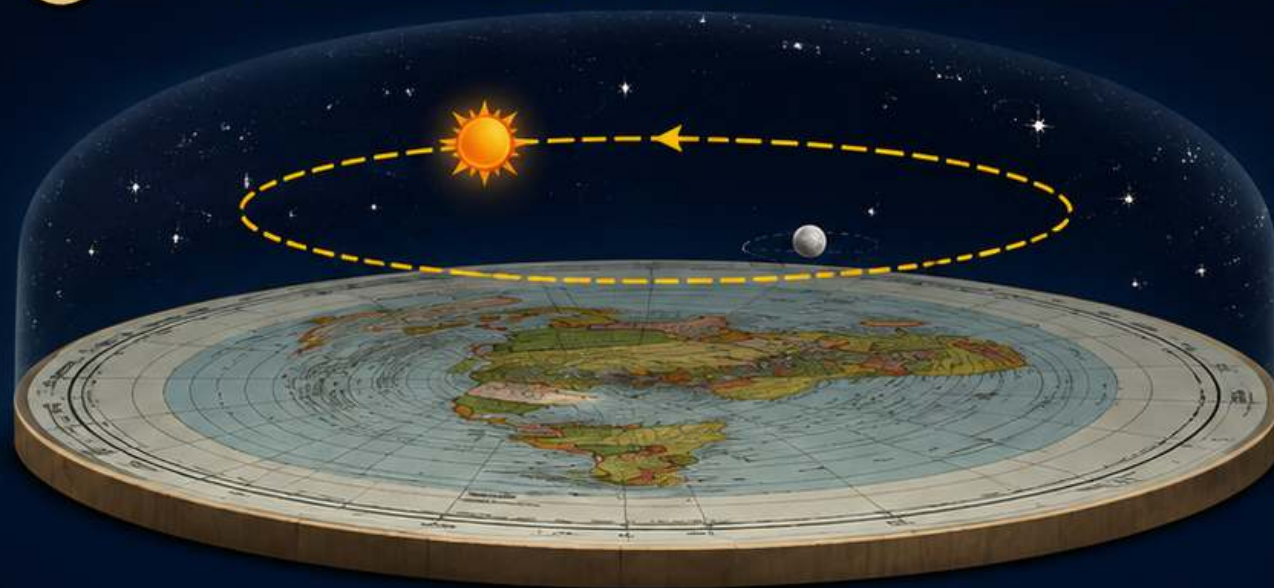


フラットアースの基本事項

① この地図に示すように**地球は平面**である。



② この平面上空を**太陽・月・星々**が周回している。

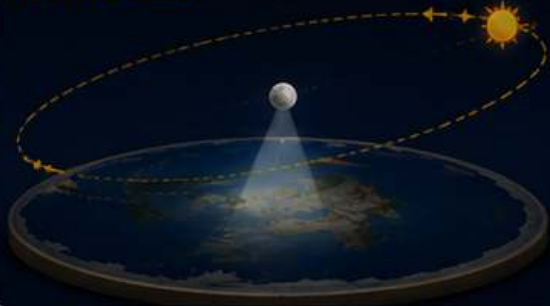


③ 太陽が**近づく**と**昼**に、**遠ざかる**と**夜**になる。

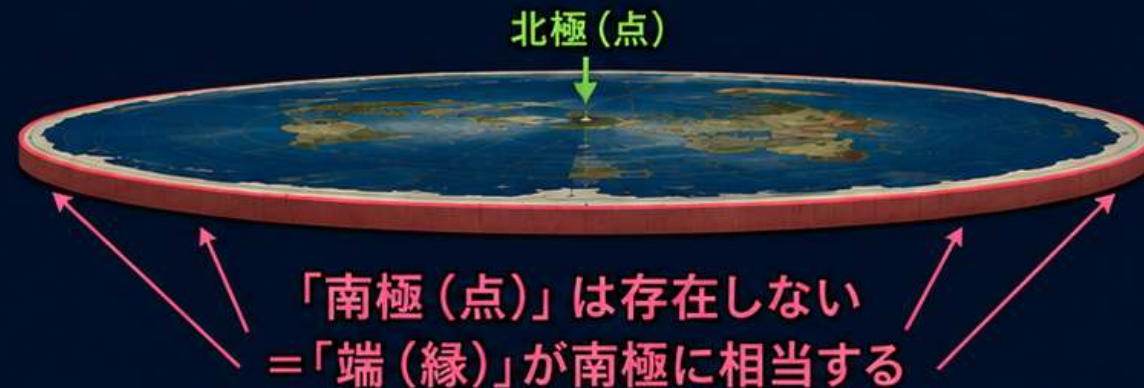
太陽が近い=昼



太陽が遠い=夜



④ 「**北極**」という点はあるが、「**南極**」という点はない。
それらは、地球平面の「**端**」を取り囲む部分である。



もしフラットアースが本当であれば…

月の裏側が見えるはず



どうしてなのか考えて！
答えは後で！



もしフラットアースが本当であれば…

同じ日でも**観測地**によって、
月相（**三日月**、**半月**、**満月**）が
違ってしまふ

三日月



今日は
三日月だ！

半月



今日は
半月だ！

満月



今日は
満月だ！



どうしてなのか考えて！
答えは後で！

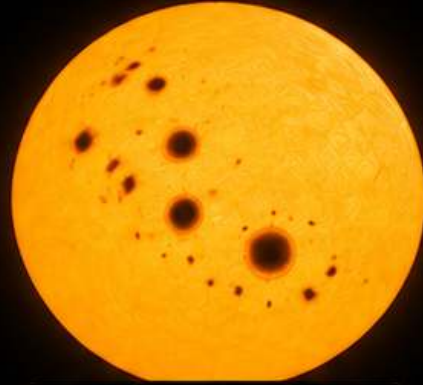


もしフラットアースが本当であれば…

同時刻でも、**観測地**によって
太陽黒点が異なってしまう。



観測地 A



黒点が**たくさん**
見えるよ！

観測地 B



黒点が**少ない**なあ

観測地 C



黒点が
全く見えない！



どうしてなのか考えて！ 答えは後で！

フラットアースでは、
平面地球上空のたかだか**5000km程度**の高度で
太陽や月が周回していることになっています。

こんな近距離では、これらの球体を
様々な方向から観測できることになり、
観測地によって見えるものが異なります。

それが論理的帰結というものです。
月については、**下半分(表側)**のみならず、
上半分(裏側)の一部も見えてしまいます。

これは、**気球**を様々な方向から
見ることに同じです。



正面から見る



横から見る



後ろから見る



下から見る



もしフラットアースが本当であれば…



太陽が沈むことはない。
「日没」はありえない!

フラットアースの場合



太陽は**沈まない!**

実際の観測 (球体の地球)



日没が起こる



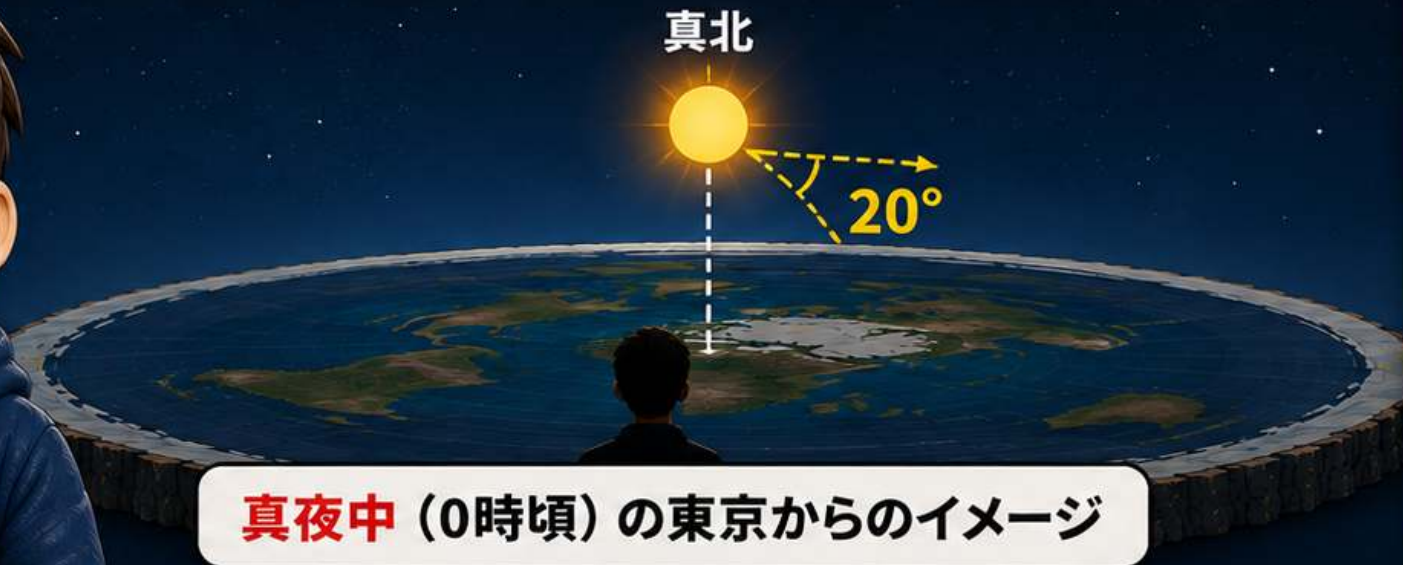
どうしてなのか**考えて!**

答えは後で!

もしフラットアースが本当であれば…



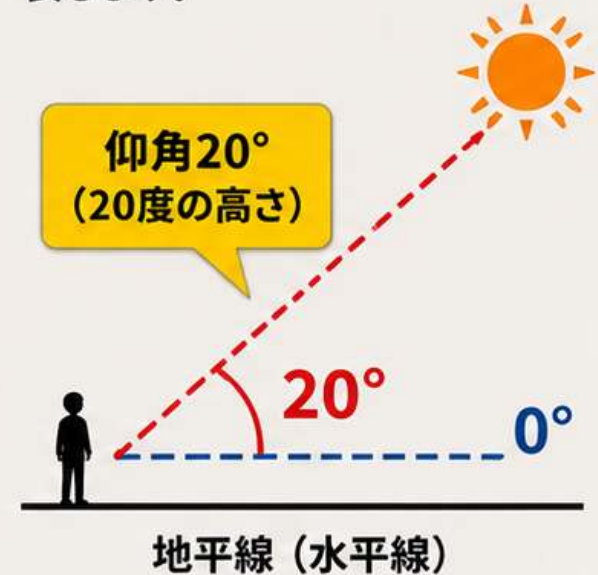
夏至の東京の場合、
真夜中でも真北に太陽が
仰角 20° で見えるはず。



仰角とは？

地平線（水平線）を 0° として、
そこから上に向かう角度のこと。

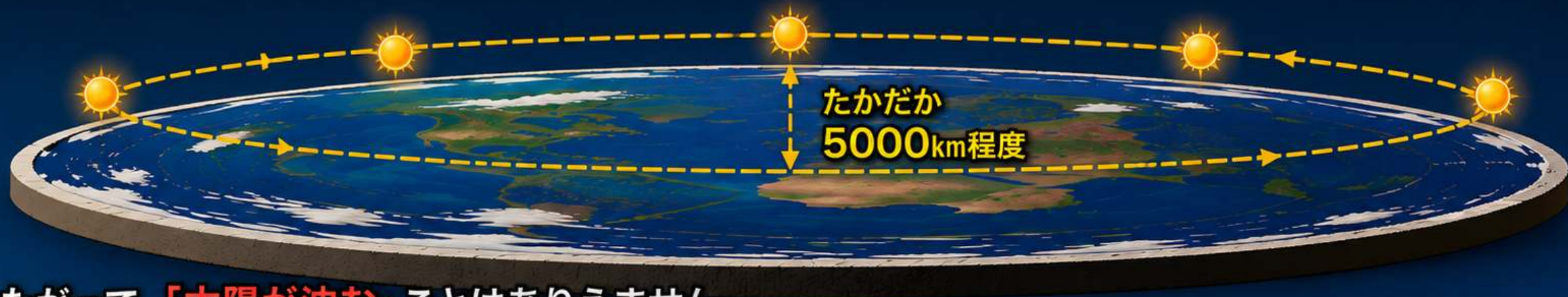
太陽や星が、地平線から
どれくらいの高さに見えるかを
表します。



どうしてなのか考えて！

答えは後で！

フラットアースでは、平面地球上をただだか**5000km程度**で**太陽**が周回していることになっています。



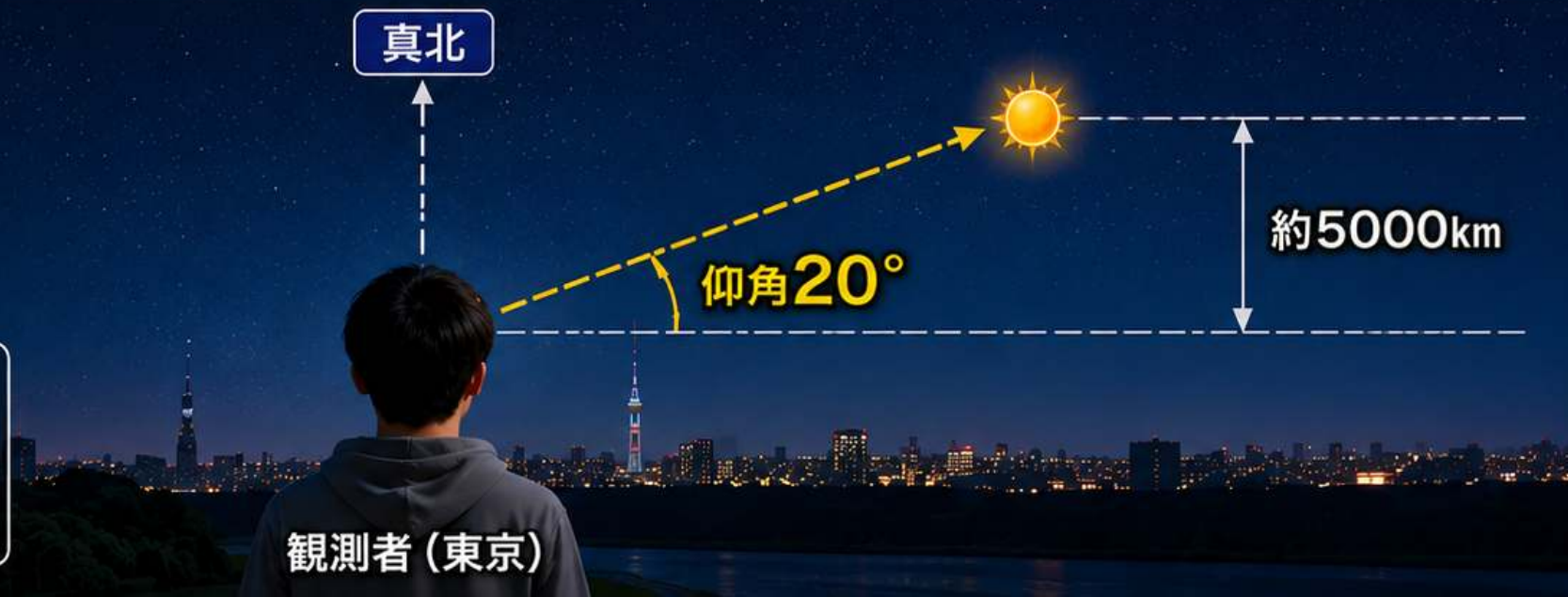
したがって、「**太陽が沈む**」ことはありません。
常に平面上空**5000km程度**にいるはずです。

また、計算上、
夏至の東京の真夜中において、
真北に**太陽が仰角20°**で
観測できなければなりません。

【東京の緯度】北緯35.7°

【夏至の太陽の赤緯】+23.44°

→ $90^\circ - (35.7^\circ - 23.44^\circ) = 20.26^\circ$



観測者(東京)

もしフラットアースが本当であれば…

南極白夜はありえない!

南極での白夜とは?

夏の数か月間、
太陽が沈まずに
24時間ずっと
明るい現象。



南極・白夜のイメージ（夏の数か月間）



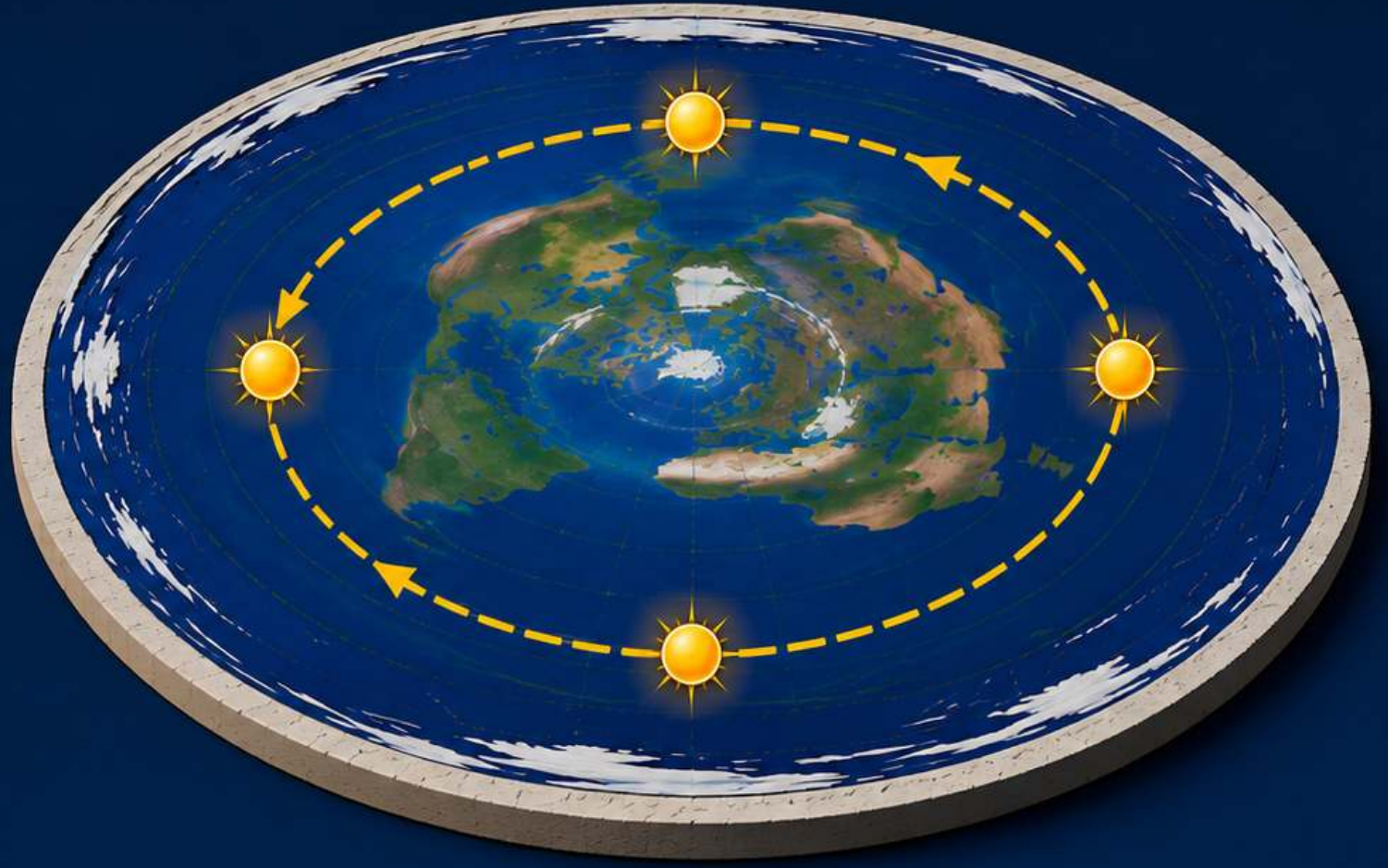
どうしてなのか**考えて!**

答えは後で!

フラットアースでは、
北極を中心とした平面の上空を
太陽がぐるぐる回っています。

ですから、北極では白夜
(24時間太陽が見える)はありますが、
南極の白夜は絶対にありえません。

この「縁」の部分すべてを
太陽が同時に照らすことは
できないのです。

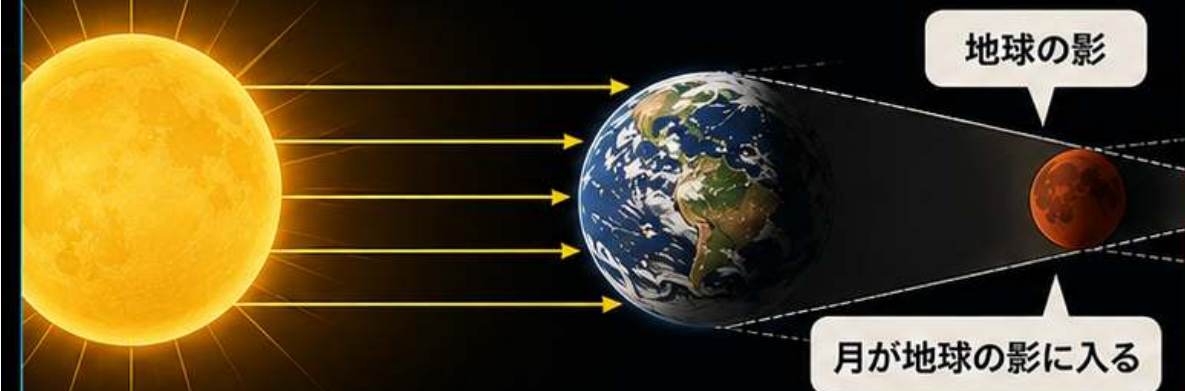


もしフラットアースが本当であれば…

月食は起こり得ない!

実際の地球（球体）では…

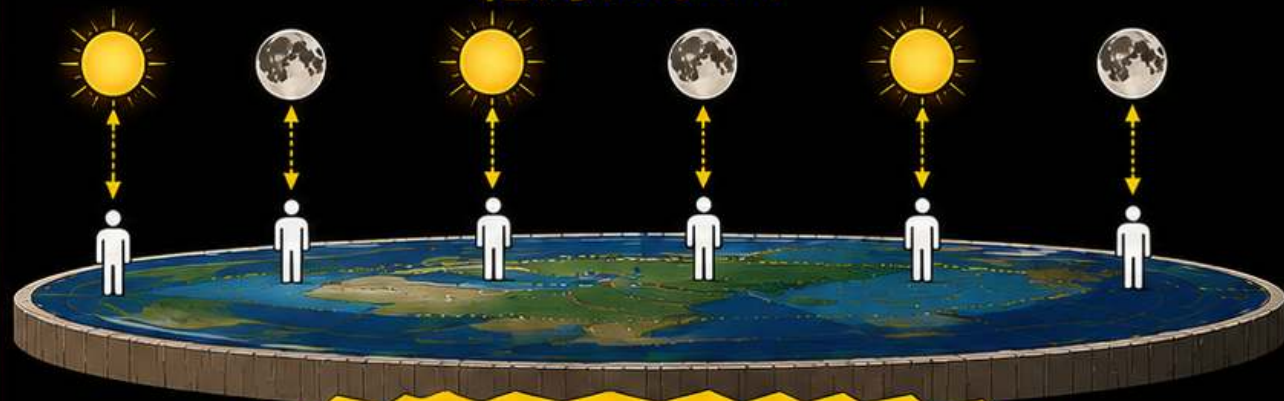
月への太陽光を
地球が遮って月食が起こる。



これが月食の正しい仕組み!

平面地球（フラットアース）では…

太陽も月も地球の上空を同じ高さで移動するだけ。
地球のどこにいても、地球が月への太陽光を遮ることは
絶対にない!



平面地球では、
そんなことは**絶対に起こらない!**



月食は「地球が月への太陽光を遮る」ことでしか起こりません。
平面地球では絶対に起こり得ない! よって、フラットアースは間違いです!





もしフラットアースが本当であれば…

オーストラリアの横幅(東西方向)は、常識よりも**2～3倍も**大きいことになる。

常識の地図(球体の地球)



フラットアースの地図(平面の地球) ※横幅だけを長くした場合



例えば、豪州東西横断鉄道は…

新幹線並のスピードが必要!



もちろん、国家的測地や土地登記など様々な点において、**大規模な騙し**が必要になる。

測地・地図の改ざん



正確な測量データを隠蔽し、地図を意図的に歪めている

土地登記の偽造



実際の距離や面積と異なる土地情報で登記を行っている

航路・航空の欺瞞



実際より短く見せかける航路で、全ての航空・航海を管理

国民への情報統制



真実を知らせず、学校教育やメディアで洗脳を続けている

科学者・研究者の封じ込め



異論を唱える者を排除・圧力で黙らせている

これだけの
大規模な騙しを
世界中で
続けるのは
不可能!

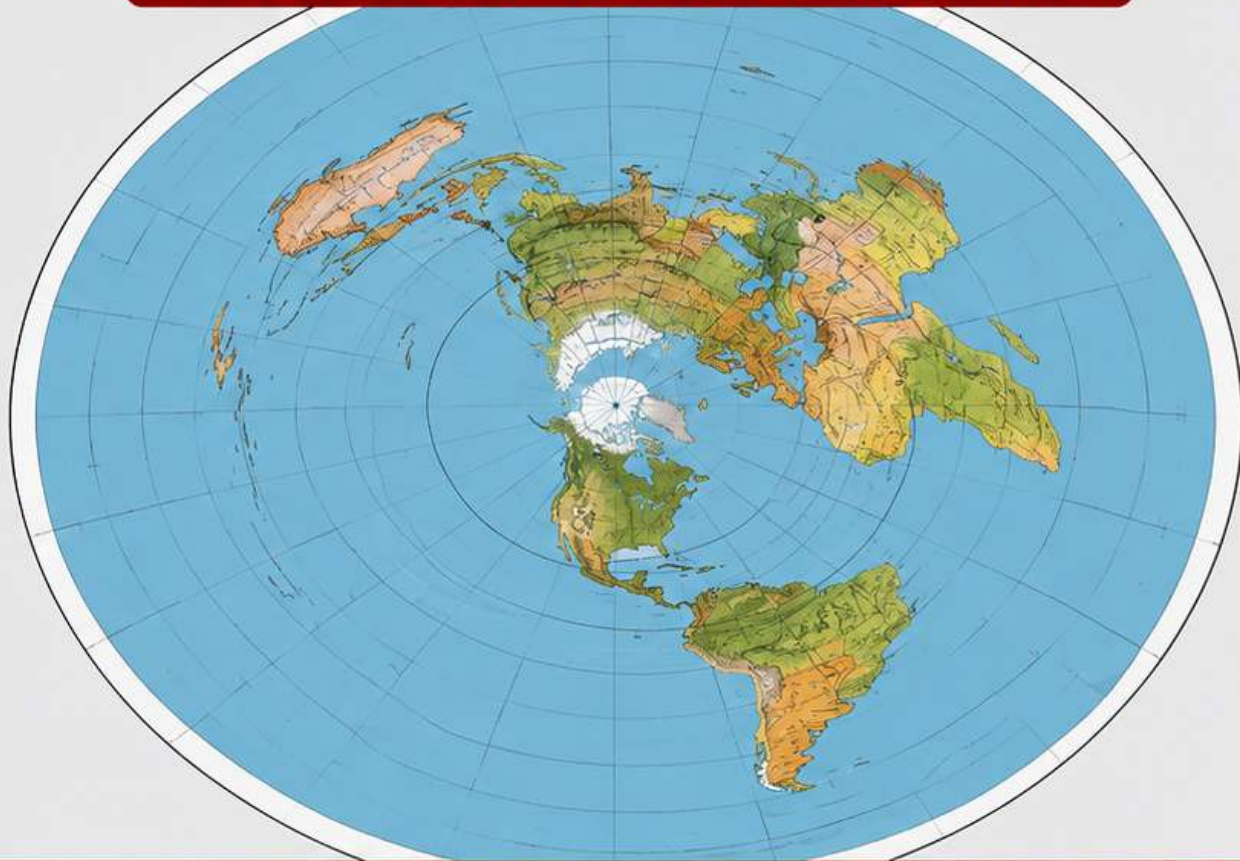


再度、平面地図では南に行けばいくほど、
現実よりはるかに引き伸ばされるのです。

現実の地球（球体）



平面地図（正距方位図法の例）



平面地図では、南に行けばいくほど、現実よりはるかに引き伸ばされる！

?

もしフラットアースが本当であれば…

球体地球ではありえない距離(341km以上)から
常に**エベレスト**が見える。

フラットアース(平面地球)の場合

エベレスト

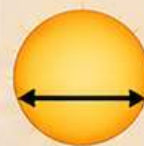
遠く離れた場所からでも、
常にエベレストが見える!

地平線の下に隠れるはずの山が**見えてしまう!**

しかも、その見かけの高さは

太陽・月直径の3倍にもなる!

太陽の
見かけの直径



月の
見かけの直径



エベレストの
見かけの高さ



(約3倍!)

当然、大騒ぎになっていないとおかしい!

なぜニュースに
ならないんだ!?

世界中の人が
見えるはずよね!?

専門家やメディアは
何をしている!?

科学的に
説明できないぞ!

これが事実なら
大問題だ!

これが
事実なら、
世界は
**大騒ぎに
なるはず!**

もしフラットアースが本当であれば…

大気状態が良好であれば、エベレストから341km以上離れていても見えるはず。
沈む太陽は1万km程度離れている。エベレストが見えないはずがない。



フラットアースの場合

- ・地球は平面で、遮るものがない
- ・大気状態が良好なら、遠くの物体は距離に比例して小さくなるだけで、理論上はどこまでも見えるはず。
- ・エベレストの標高は約8.8km。
341km離れていても、はるかに見えるはず！

➡ したがって、エベレストは見えるはず！

しかし現実には…

- ✗ エベレストは、地平線の下に隠れて見えない
- ✗ 実際には、約200km程度で見えなくなる
- ✗ これは、地球が球体で、地平線の向こう側に隠れるから

➡ よって、地球は球体である！

球体地球なら矛盾がない！

地球が球体なら、地平線の向こう側に隠れるため、エベレストは見えなくなる。



エベレストが見えないという観測事実は、フラットアースでは説明できない！

そもそも、こんなことが日常的に起こるのであれば、 既に全員が「球体はウソだ!」と気づいているはず!

月の裏側が見えてしまう。



月の位相が観測地によって違う。



太陽黒点が観測地によって違う。



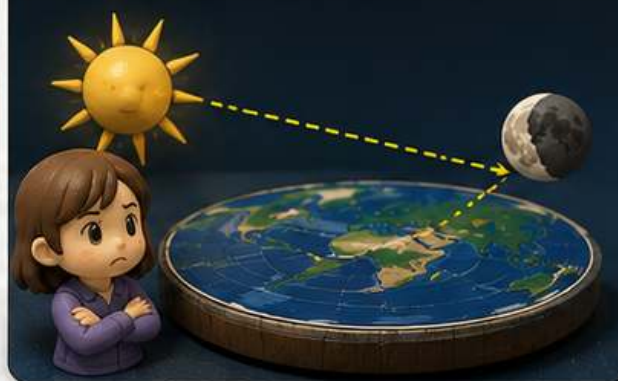
日没しない。東京の真夜中にも太陽が見える。



南極白夜がない。



月食が存在しない。



オーストラリアの地理がデタラメ。



ありえない距離からエベレストが見える。



これらのことが日常的に起こるのであれば、
既に全員が「球体はウソだ!」と気づいているはず!

わざわざ「地球は平面だ!」
と主張するまでもない。

もしフラットアースが**真実**であれば、
残念ながら、

フラットアースは**存在しえない**

月や太陽が、
言われてることと違う



ありえない場所から
エベレストが見える



オーストラリアの
地理が違う





フラットアースの**真の目的**は、

「**洗脳済みの一般庶民**とは異なる、

真実を知った私たち」

という**エゴ**を満たすことである。

学校や
メディアを
信じている

疑うことを
知らされて
いない

常識に
従うだけの
人生

地球は丸い

真実を知った
私たち

フラット
アース
真実

フラットアーサーは、
「**重力**など**存在しない**！
物が落ちるのは
密度差によるものだ！」
と主張する。



重力など
存在しない！

物が落ちるのは
密度差によるものだ！

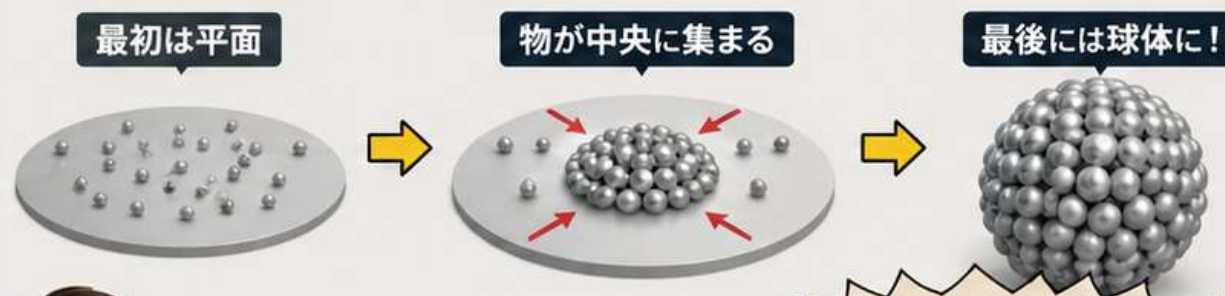


しかし、それはすべて「**都合のいい説明**」にすぎない！

❌ **問題1** 重力があれば、**球体の裏に人が住めてしまう**→



❌ **問題2** 最初は**平面**でも、物が**中央に集まり**、
最後には**球体**になってしまう



自然の法則に従えば、平面は不安定で、
球体になるのが必然！

フラットアーサーの
主張は、これを避けるための
ご都合主義にすぎない！

フラットアーサーは、
「**重力**など**存在しない!**
物が落ちるのは
密度差によるものだ!」
と主張する。

重力など
存在しない!



物が落ちるのは**密度差**によるものだ!



重い物
(密度が高い)

>



軽い物
(密度が低い)



密度が高い物ほど
下に落ちる!

しかし、
この機にも**密度差**があるのに、
人や物が落ちないことには
無視を決め込んでいる!

密度差なら、
重い物は下に落ちるはず...



密度が高い物



密度が低い物



>



本来なら、
密度が高い物ほど**下に落ちるはず!**

しかし実際には...



どちらも落ちない! 浮いている!

都合の悪い事実は
見ない!
考えない!
無視する!



ZERO G機 (無重力飛行実験機)



放物線飛行により、
約20秒間、機内が
ほぼ無重力(微小重力)
状態になる。

- ✓ 人が浮いている
- ✓ 物が自由に漂っている
- ✓ 水の球が浮いている

フラットアースは絶対に成立しない！

観測事実と論理的帰結から、フラットアースは成り立たないことは明らかである。

① 太陽や月は、はるか彼方にある。でなければ、観測事実とは一致しない。

近距離（フラットアースモデル）では、観測事実と矛盾が生じる！

✗ 月の裏側が見えてしまう

近距離で月が周回していると、場所によっては月の裏側が見えてしまうはず。



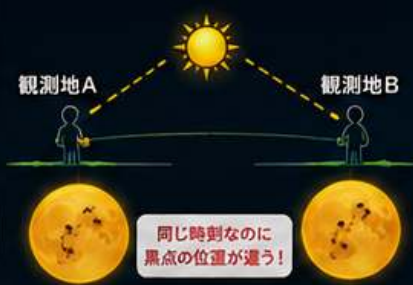
✗ 月の位相が異なってしまう

近距離で月が周回していると、観測地によって月の位相（見え方）が異なってしまうはず。



✗ 太陽黒点が異なってしまう

近距離の太陽を同時に観測すれば、観測地によって太陽黒点の位置が異なってしまうはず。



実際には、月の位相も太陽黒点も、世界中どこで見ても同じである。⇒ 太陽や月ははるか彼方にある！

② そうであれば、フラットアースは成立しない。 「地球平面上空を近距離で周回」することはできなくなる。

✗ フラットアースの主張

太陽は地球平面の上空をたかだか数千kmで周回している。



観測事実から、太陽ははるか彼方にあると結論せざるをえない。したがって、「地球平面上空を近距離で周回」することはできない。

○ 観測事実の結論

太陽は地るか彼方にある。
(少なくとも数千万km以上)



③ 遠距離の太陽が「日没」するためには、地球を曲面にせざるをえない。

✗ 平面地球では、日没は起こりえない！

太陽がはるか彼方にあっても、地球が平面ならば、太陽は地平線まで見え続けるはず。



太陽は沈まず、いつまでも見え続ける！

○ 地球が曲面だから、日没が起こる！

地球が曲面であれば、地平線の向こう側に太陽が隠れ、日没が起こる。



太陽が地平線の向こうに隠れ、日没が起こる！

これが論理的帰結である

- ① 太陽や月は、はるか彼方にある。でなければ、観測事実と一致しない。
- ② そうであれば、フラットアースは成立しない。地球平面上空を近距離で周回することはできない。
- ③ 遠距離の太陽が「日没」するためには、地球を曲面にせざるをえない。

したがって、フラットアースは絶対に成立しない！

観測事実と反するフラットアースは、
論理的にも科学的にも
成り立たない！



✓ 観測事実と反するフラットアースは、科学でも論理でも成り立たない！これが真実である。

フラットアースとは、**一つのウソ（平面）**をついたがために、
次のウソ（近距離天体）、**次のウソ（重力不存在論）**と
際限なくウソをつき続けたため、
さらに**ウソの上塗り**をする状態だ。
まるで、警察・検察に追求される**真犯人**のようである。



さらに**ウソの上塗り**
ウソの上塗り를續けて
矛盾だらけに！



最初のウソから
すべて破綻している。
観念しろ！



- フラットアースのウソが引き起こす矛盾の事例
- | | | | | | | |
|---------------|-------------|-------------------|---------------|-------------|--------------------|-------------|
| 1 太陽黒点が世界中で同じ | 2 南極白夜が存在する | 3 南半球の星の動きが説明できない | 4 太陽の大きさが常に一定 | 5 太陽が沈んでしまう | 6 密度差では重力の変わりにならない | 7 月の裏側が見えない |
| | | | | | | |
| 矛盾！ | 矛盾！ | 矛盾！ | 矛盾！ | 矛盾！ | 矛盾！ | 矛盾！ |

証拠

- ・観測事実
- ・科学的証拠
- ・写真・映像
- ・航路データ
- ・天文データ
- …など多数

フラットアースの矛盾点を追求していくと、
逆に、観測事実を満たすには
球体が自然であることが理解できてくる！



天体はるか彼方にあり、地球が**球体**だからこそ

✓ 月の裏側は見えない



裏側（見える側）

裏側（見えない側）

月は自転と公転の周期が同じため、地球からは常に同じ側しか見えない。

✓ 月の位相が世界中で同じ



月の自転変化（位相）は、地球上のどこから見ても同じタイミングで同じ形に見える。

✓ 太陽黒点が世界中で同じ



太陽黒点は地球上のどこから観測しても同じ位置・同じ形で観測される。

✓ 太陽が水平線・地平線に沈む。 夜が存在しうる。



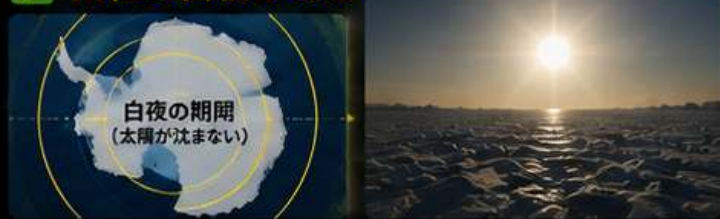
太陽は遠方にあるため、地球の曲率に沿って水平線の下に沈み、夜が訪れる。

✓ オーストラリアの地形に矛盾がない



球体の地球なら、オーストラリアの広大な内陸や地形のつながりに矛盾が生じない。

✓ 南極に白夜がある



地球の傾きと公転により、南極圏では太陽がずっと地平線の上にあり、白夜（極昼）が起こる。

✓ エベレストが見えない



地球が球体なので、距離が離れると地平線の向こう側に隠れ、エベレストは見えなくなる。

✓ 重力があって球体の裏に人が住める



重力がある球体の地球では、どの方向にも「下」があり、地球の裏側（反対側）にも人が住むことができる。



絵解き 誰でもわかる
フラットアース（平面真理教）は大嘘
～新手のカルト宗教に騙されないように～

2026/8/23 Version 1
©字幕大王(www.jimakudaio.com)
配布はご自由にどうぞ